

6年生「子ども議会」へ

21日(火)、6年生が『子ども議会』に参加しました。

「質問通告事項」はおもに以下の6項目となります。

6年生は、日常生活の中で感じていること、地域を見渡して目につくこと気づくこと、そして「ふるさと麻績」の未来を思い描いて期待することや心配になることなどを、懸命に質問としてまとめ



①聖湖を大々的にPRし、春から夏にかけて観光客が多く来るようにしてほしい。

聖高原スキー場の観光施設としての現状と今後の見通しについて。

②筑北中学校の水道水を飲みやすくしてほしい。

③車道に近く風が直接吹き付けるバス停を、安全で快適なものにしてほしい。

④村にある空き家を有効活用して、麻績村への移住者を増やしてほしい。

⑤安心・安全な通学路にしてほしい。

⑥子どもが遊べる公園がほしい。

ました。

高野村長様をはじめ村行政担当課長の皆様、塚原議長様をはじめ村議会議員の皆様、傍聴席には地域や保護者の皆様そして麻績小5年生の皆さん、ほかにも関係者の方や報道の方々。多くの皆様が見守る中、村の赤絨毯の議会議場で発言することはやはり緊張感いっぱいであったと思います。事前にリハーサルの機会を設けていただいたとはいえ、その緊張感を味わえたことも含めて貴重な経験の場を提供していただきました。

麻績村が「子ども議会」を開催して、今年で14年め。今でこそ各市町村

で同様の催しが開催されることが多くなってきましたが、その歴史にも「子どもは麻績の宝」の精神を感じることができます。

校長室そうじに来た6年生雑賀光彦さんは、「村長さんは、この(ぼくの質問に対する答弁)のために釣りの本を買って勉強して、その本を持ってきてくれていた。やっ



ぱりすごい」と話していました。まさに村長様をはじめ各担当課の皆様からの答弁は、子どもたちにも分かりやすく、具体的なデータに裏付けられたもので、村長さんはもちろんのこと、関係各課の皆様がお忙しい中にもかかわらず、ここまでの準備をととても丁寧にしてくださっていることを感じました。本当にありがたいことです。

国会の議会場を見学した経験をもつ子どもたちは今回、村の議会場で実際に席に着き、発言し、答弁をお聞きする、という貴重な経験を得ることができました。修学旅行では遠くから眺めるだけだった赤絨毯の上に、自分たちも実際に立って議会を体感することで、行政がより身近なものとして感じられたことでしょうか。さらには、ただ要望しているだけでは、ものごとは実現に向かわないことも感じ取れたことでしょうか。多くのデータに基づき、限られたお金や時間を最大限に活かして、より多くの幸福を実現すること。そして、そのことの厳しさや困難さ。活きた学習となったことでしょうか。



このことは一生の財産であると思います。子どもたちが将来にわたって広く社会を見る目を持ち、麻績村の今と将来を考える力となってくれることに期待しています。昨年50周年を迎えた麻績小学校ですが、その頃子どもだった皆様が今や村政の中心のお立場になり、このように子どもたちの将来を考えてくださいます。半世紀後には、今の麻績小学校の子どもたちが麻績村の舵取りをする側になったり、それぞれの立場で麻績村を支える存在となっていたりしてくれることは間違いありません。わたしはそんな将来が楽しみでなりません（もっともわたしはその頃土の下ですが…）。

傍聴に駆けつけてくださったお家の皆様方も、ありがとうございました。

スキー教室の中止にかかわって

残念ながら予定していた今年度スキー教室は、すべて中止となってしまいました。「せっかくの聖高原があるのに、一度はスキーをはかせてあげたい」と2月実施に向けて検討を始めました。しかし、スキー場やバス会社との調整困難であること、予定されている行事の間に実施することも難しいことなどから、今年度のスキー教室を見送ることにいたしました。何とぞご了承ください。また、3年生以上の保護者様にはお弁当を二回も用意していただくこととなり申し訳ございませんでした。また、ありがとうございました。

まさか、このまま春がやってくるとはとても思えないので、きっと今後降雪もあり、その際には「あああ」となってしまいそうなことが残念です。